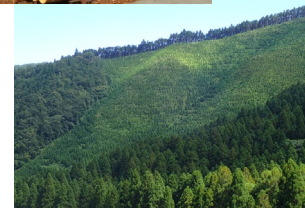


1 本県の概要

- 農業産出額 3,478億円（全国第4位） R3
林業算出額 288億円（全国第4位） R2
- スギ素材生産量は31年連続日本一（シェア15%）
- 耕地面積 6.5万ha（畑3.5万ha、田3万ha）
- 森林面積 58.6万ha（県土の76%）
- 温暖湿潤な気候など、地理的条件に適応した**施設園芸**と**畜産**が主力品目



➤ 主要品目の収穫量・飼養頭羽数、全国順位

	宮崎県	全国順位
ピーマン	2.7万トン	2
きゅうり	6.1万トン	1
肉用牛	25.0万頭	3
豚	79.7万頭	2
ブロイラー	2,801万羽	1

2023年G7宮崎農業大臣会合の開催地

- 令和5年4月22日・23日 宮崎市において開催
- G7（仏、米、英、独、伊、加、日）の農業大臣が参加
- 農業を取り巻く課題や、それに対応するための政策や取組について議論



2016 G7新潟農業大臣会合

2 課題

(1) 海外資源に依存した生産構造

- 施設園芸や畜産は化石燃料由来の燃油や化学肥料や飼料など海外資源に依存

(2) 地域資源の活用不足

- 鶏糞（ブロイラー）はほぼ100%が発電に利用される一方、牛糞・豚糞・鶏糞（レイヤー）の活用が十分進んでいない
- 稲わら、野菜の非可食部や林地残材などの地域資源としての活用が不十分



重油ボイラー

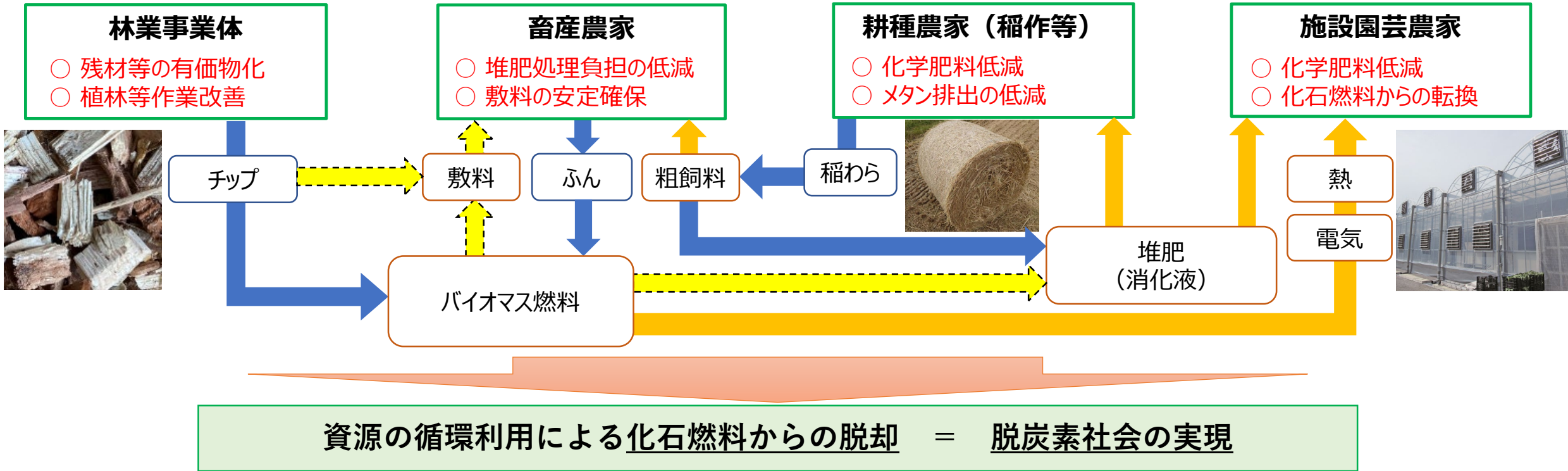


かんしょ畑

G7農業大臣会合を契機として、**持続可能な農業の実現**に向けた取組を加速

取組	宮崎県の強み
1 化石燃料由来の重油や濃厚飼料など海外資源への依存体質の転換	① 全国上位の農業生産力 ➢ 大量の非可食部、畜産排せつ物が恒常的に発生
2 資源循環（サーキュラーエコノミー）の強化	② 温暖多照によるバイオマス生産力 ➢ 全国屈指の純一次生産力 ➢ 二毛作や二期作の拡大が可能
3 未利用資源（バイオマス）の多段階（カスケード）利用や新素材創出	③ 多様な施設園芸、畜産の大産地 ➢ 品目や規模に応じた現地実証の主体を確保

3 得られる成果



4 寄付することのメリット

- 地域課題の解決、脱炭素社会の実現への貢献
- 宮崎発の資源循環モデルの構築への参画

【連絡先】

宮崎県 環境森林部 環境森林課
 ゼロカーボン社会づくり担当 (湯浅、野口) TEL: 0985-26-7084
 E-Mail : kankyoshinrin@pref.miyazaki.lg.jp